

### 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社サンコーポレーション		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原750番地		
自己評価作成日	令和2年4月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JiqvosvoCd=2972300129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type">/www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JiqvosvoCd=2972300129-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和2年6月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームひまわりは、近鉄榛原駅から徒歩7～8分で、宇陀市の中心部に立地している。施設の川向いには古事記ゆかりの墨坂神社の森が広がり、緑豊かで心穏やかな風景に出会える。地域のボランティアの方々による、お抹茶、詩吟、マンドリン演奏による歌等の教室があり、利用者に喜ばれている。季節ごとの地元のお祭りやイベントなどにも参加したり、お花見や紅葉狩りに出かけたりしている。食事は新鮮な地元の高原野菜をふんだんに使った家庭料理を提供しており、利用者の楽しみの一つになっている。アットホームな温かい雰囲気の中で、安心してその人らしく余生を送れるように、職員一同が一丸となって取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は東北東部にあたる宇陀市の中心部に位置し、近鉄榛原駅から徒歩7～8分のところにあり、歴史的に古く崇神天皇ゆかりの地として、史跡や古墳が点在し、古事記に記された墨坂神社の緑の木々と朱塗りの鳥居や建物が川を挟んで眼前に一体となって広がり、毎日人々を荘厳な気持ちにさせている。事業所の前身は開業医院であったので既に地域に馴染の關係ができています。管理者は「医食同源」をモットーとして、地元の食材を主に家庭料理を基本とし、利用者の健康面を担っていると自負し、元医療従事者であった経験と思いが随所に生かされており、長寿の利用者が多く、皆健康を保ちながら自然体でゆったりと暮らしている。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
jittu					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定に「住み慣れた地域の家庭的環境のもとで、その人らしく安心して生活を送れるように支援する」という理念を設定しており、これを職員一同が共有できるように、わかりやすい言葉「明るい笑顔と心やさしい介護」を、玄関とリビングに掲げて実践している。	利用者は地域の住民であった方が多く、事業所と馴染みと親みの関係ができており、職員も利用者がより家庭的で安心できる生活を送れるように支援している。明解でわかりやすい「明るい笑顔と心やさしい介護」を理念として、玄関やリビングに掲げて管理者と職員は共有し実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者はえびす祭り、花火大会、秋祭り等、地元の季節行事を楽しみにしており、事業所も秋祭り等の行事の運営に協力している。また、利用者は地元ボランティアの指導により詩吟や踊り等の文化活動を行っている。さらに、中学校の体験学習の受け入れを行い、地域との交流を図っている。	事業所は地域の一員としての自治会加入により、地域の情報を得ている。毎年秋祭りの神輿の巡行の立ち寄り場として敷地の一部を提供し利用者と地域住民との交流を図っている。地域の花火大会や獅子舞のお祝い、地域ボランティア活動の詩吟や日本舞踏などの訪問が利用者の楽しみになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が地元行事に参加したり見学する機会を通して、認知症の方に対する理解を深めたり支援の方法を見ていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族の方、市役所の職員、医療介護安心センターの職員、自治会役員、民生委員等の方々に参加していただき、会議を開催している。利用者の状況報告を行った後に介護に関わる情報交換をしたり、行政サイドからのアドバイスを頂いたりしてサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市担当課職員、医療介護あんしんセンター職員、民生委員、自治会代表者、利用者家族等が参加し、隣接の有料老人ホームと合同で開催している。会議では事業報告などを行い、具体的な防災内容や高齢者の健康維持などについての情報交換や意見交換が活発に行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市介護福祉課職員と医療介護安心センター職員に参加してもらい、情報交換とともにアドバイスを頂いている。事業所からは事故報告書を提出したり困難事例の対処法を相談したりしており、管理者が市の担当者と日頃から密に連携し協力関係を築いている。また、市主催の行事や研修会にも積極的に参加している。	市担当課や医療介護安心センターに運営推進会議の議事録や事故報告書を持参したり、困難事例について相談に向くなど密に連携を図っている。市主催の行事や研修会に参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修を行い、職員間で共有し実践している。玄関は安全のため電子ロックをしているが、南側の大きなベランダへの出入りは自由で気軽に外気浴ができる。安全面等の観点からやむを得ず身体拘束が必要な時は事前に医師・看護師に相談し、家族の同意を得て行うことにしている。	身体拘束の対象となる具体的な行為について職員間で研修をし共有している。過去に利用者の手術後に安全と早い回復の為に、やむをえずつなぎ服着用や点滴治療時の拘束を事前に医師と看護師に相談し、家族の同意を得て行った事例があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が心にゆとりを持ち、利用者を家族の一員と捉えてケアできるようにしている。また、高齢者虐待についての勉強会を実施するとともに利用者家族からの情報収集のため「ご意見箱」を設置し虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、その内容を他の職員に伝達できるようその資料をいつでも閲覧できる書棚に置いている。個々の必要性については、利用者家族や当施設顧問弁護士、医療介護あんしんセンター等と相談し、制度を活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については事前説明を十分に行い、利用者や家族の質問にもわかりやすく丁寧に説明し納得して頂いている。加えて、希望によりショートステイによりお試し入居も実施しており、本人や家族が十分納得した上で入居できるシステムとなっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より管理者や職員は利用者や家族とのコミュニケーションを欠かさず取るようにし、介護計画書作成時にその意向を反映させている。さらに、定期的に介護相談員の訪問を受け入れ、利用者の意見や意向等の聴取された内容を運営に反映させるようにしている。	管理者や職員は毎日のケアの中で利用者の希望や要望などを聴き取っている。家族とは衣替えや利用料支払などの来訪時に希望等を聴くようにしている。家族から利用者に入浴を勧めしてほしい等の要望があった。市介護相談員が定期的に訪問し、公平な立場で聴き取った利用者からの要望などの報告書を参考に運営の改善に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が日常的に職員と情報交換をし、職員の意見や提案を聞いている。重要事項を話し合う月一回の会議の場でも職員からの意見を聴取して運営に反映させている。	日頃から職員は管理者に気付いたこと等を話しやすい環境にあり、月初めの会議では、管理者は職員と個々の利用者の介護計画の達成度を話し合うとともに、介護方法の提案など意見交換を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との協働を通して職員個々の努力、実績、勤務状況を把握している。常日頃より職員との意見交換を欠かさず、各自がそれぞれの課題を克服して向上できる職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は常日頃より職員とともにケアを行い、オン・ザ・ジョブに必要な指導を行っている。さらに職場内研修として年間計画に基づき月1回の勉強会を実施している。また、年度初めに各種研修会を案内し、積極的に参加しやすいよう費用を事業所負担、勤務扱いとし、職場外研修を奨励している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協会に入会しており、相互訪問の活動を通じて情報交換を行ったり勉強会に参加したりしている。また、市内の医療・介護連携シンポジウムにも参加し、多職種との連携を深めサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人との面談で本人の気持ちや要望等を十分傾聴し、本人との信頼関係を構築することによって安心してもらえるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族との面談で家族としての要望や不安等を十分傾聴し、家族との信頼関係を構築するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者と家族から、できるだけ多くの意見や要望を聞き取り、直近の支援を見極めた上でさらに幅広いサービスも含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として温かく接しており、その関係の中で、利用者を人生の先輩として学ばせてもらうことも多い。利用者と職員がお互い支え合いながら暮らしを共にする関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに家族には利用者の状況を報告したり、家族と利用者との面会時には職員が同席して情報共有するなど、施設と家族とが一体となって利用者を支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元からの利用者が多いなか、地元の季節行事には、なるべく全員で参加できるようにしている。また、家族をはじめ親戚や友人の面会もあり、馴染みの関係を続けられるようにしている。中には家族から送られた好物のブラックコーヒーを楽しみ、ライフスタイルを継続する利用者もある。	利用者の友人、親戚の来訪は利用者との関係が途切れないように歓迎している。電話の応答から身近な人の声を聞いてもらったり、利用者の馴染みの場所へ四季を感じながら散歩したりする。仏壇を部屋に祀り気持ちを安定させている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、皆でリビングの円卓で過ごし、お互いに声掛けやコミュニケーションを取りながら和やかにレクリエーションやリハビリ体操等をしてもらっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は該当者はいないが、過去には退所して家に戻られた後も施設のイベントに参加してもらったり、逆に家の近くを通りかかった時には立ち寄らせて頂いたりして施設との関係が断ち切れないようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に当たり、当施設独自のアセスメントシートに身体面・精神面・生活歴等を記録し、利用者の思いや希望の把握に努めている。また、家族とも面談し本人にとって最も望ましい状況で生活できるよう取り組んでいる。	利用開始時には本人の生活歴や趣味、こだわり、暮らし方の希望など本人と家族からの希望や意向も合わせて聴いて、記録している。日常の暮らしの中で把握した情報は、申し送りノートに記録して職員で共有している。夜間の居室でのケア時や入浴等の個別ケアをする時の会話を大切にし意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始にあたり当施設独自のアセスメントシートを活用し、ご家族から今までの生活環境等について十分に聞き取りを行い把握している。また、他施設からの入所者については、介護サマリー等にて経過を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の介護の中で利用者本人をよく観察し、心身状態や残存能力等の現状について職員間で意見交換し把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回、介護計画書を見直すにあたり、本人や家族の要望を聴取した上で、職員間で毎月のモニタリング結果も勘案しながら意見交換を行い、利用者本人にとって最も適切なケアの在り方を検討し介護計画を作成している。	6ヶ月ごとの介護計画見直し時に、日常的に記録する申し送りノートや毎月のモニタリング記録を参考にして、本人や家族、職員が話し合いを行い、ケアマネジャーが本人本意の介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきを介護日誌に記入し、職員間で情報共有して介護計画の見直しに役立てている。また、次の介護者に特に引き継がなければならない注意事項については、申し送りノートにより徹底を期している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できるように、理容、マッサージ等を取り入れたり、場合によっては訪問歯科、訪問看護、訪問リハビリ等も利用し、柔軟な支援、多機能なサービスを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加するとともに地元のボランティアによる詩吟・踊り等の文化活動を取り入れ、利用者が安全で心豊かに楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期的に、内科医及び皮膚科医の訪問診療があり、必要に応じて歯科医の訪問診療も行っている。怪我や発病時には医療機関に対応してもらえる体制にあり、概ね職員が受診支援を行っている。	事業所の協力内科医が訪問診療を行っており、緊急時の対応もしている。月1回皮膚科医と随時に歯科医の往診がある。他医科への通院は家族の付き添いを基本としているが、家族ができない場合は職員が付き添っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は日常的に職場内の看護師に情報交換をして適切なケアの仕方を相談している。必要に応じて訪問看護ステーションにも相談を行い、受診や訪問看護を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者との関係を密にし、緊急時には入院できる病院を複数確保している。入院した場合は、見舞いに訪れ、病状経過や治療方針等について病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「その人にとって最善を」との看取りの方針を重要事項説明書と契約書に明記し、契約時に本人や家族に説明している。重度化した場合には、医師、看護師職員、訪問看護師を交え、利用者家族と話し合い、意思を確認している。	看取りの指針を契約書や重要事項説明書に明記するとともに、利用開始時に本人と家族に説明し、要望を聴いている。本人が重度化した時は改めて医師、看護師、本人、家族、職員が話し合い、意志を確認し自然体で看取りの支援を行っている。管理者が医療に従事していた経験が看取りの介護にも活かされている。最近の事例では去年は1人、今年は2人の方の看取りの支援を行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて「事故・緊急時対応マニュアル」や「応急手当のポイント」を作成し、事故発生時に迅速な対応ができるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物は一階建てで玄関のほかに非常口が2か所あり、避難しやすい構造となっている。避難訓練は消防署に計画書を提出した上で、春と秋の年2回自主訓練として行っている。非常時の飲料水は敷地内にある井戸水を確保しており、非常食も備蓄している。管理者は自治会員であり、地域との協力体制も築いている。	避難訓練は消防署に計画書を提出し、春と秋に行っており、昼間避難訓練で利用者全員が避難するのに5分かかった。事業所は2階建ての1階部分で、非常口は玄関の他に2ヶ所あり、消防署より避難通路に障害物を置かないよう指摘を受けたことがあり、常に点検を行っている。管理者は自治会の一員であり、緊急時には地域の協力が得られる話し合いができています。	近年多発している想定外の自然災害に備えて、動きが不自由な高齢者の避難訓練、特に夜間想定避難訓練の実施に向けた取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼ぶ時は苗字だったり名前と呼んだり、時には先生と呼んだりしており、言葉数が少ない利用者に対しても声掛けを絶やさないようにするなど利用者の尊厳を大切にケアを心がけている。トイレ誘導ではプライバシーを重視した対応をしている。居室の入り口にのれんをかけ、ドアを開けても室内が直接見えない等の配慮をしている。	利用者のプライバシーを守り、過去の辛かった事などには特に触れないよう本人のプライドを保つよう配慮している。利用者への言葉掛けの配慮、トイレや入浴時の脱衣所での羞恥心への配慮など常に忘れず対応をしている。居室の入り口には「のれん」を掛け利用者のプライバシーを大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の目線で声掛けを行い、思いや希望を伝えるように配慮している。日々の献立やレクリエーション等についても利用者の希望を聞くようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を基本とするものの、一人ひとりのライフスタイルやペースを尊重し、またその日の体調・希望に沿った対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理容師に散髪に来所してもらっている。男性には髭剃りを促したり、女性にはその日の衣服を自分で選んだり化粧をしたりしてもらい、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員がお互いの顔が見える大きなテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。食事は3食とも職員が手作りし提供しているが、一部の利用者に調理の手伝いやテーブル拭き、おしぼりの用意をしてもらっている。利用者にメニューの希望を聴きながら地元の新鮮な野菜を食材に取り入れている。	食事は、管理者が献立し季節の野菜や地産品の食材を調達に行き、職員の手作りで提供している。利用者と一緒にテーブル拭きやおしぼりの用意をしながら、その日のメニューなどを話題にし楽しんでいる。外食時は、同行の職員が調理バサミを持参して、本人が食べやすい大きさに切り揃え、外食の料理を楽しむ支援を行っている。誕生日会には「ケーキ」を用意し皆んなでお祝いしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に水分補給を促している。新鮮な多くの素材を使っの献立を軸としているおり、食事摂取量が少ない利用者には栄養缶等で補足し、一人ひとりの状況に応じて栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがい、入歯洗浄など個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に排泄パターンを把握し、利用者に応じて声掛けを行い排泄の自立に向けた取組みを行っている。歩行リハビリを兼ねたトイレ誘導を行うに当たり、伝え歩きしやすいように手すり、椅子、テーブルを配置し、自立に向けた支援を行っている。	昼間は、布パンツや紙パンツにパット着用の方が多く、利用者ごとの排泄パターンを把握し適時にトイレ誘導を行い自然排泄を促している。夜間はポータブルトイレを使用する方もある。自宅では失禁をしていた方が、利用開始の日から紙パンツ対応で失禁がなくなった事例があった。利用者の体格に合わせたテーブルやイスの配置や適当な手すりの設置が歩行を促し、排泄の自立に繋がっているのではないかと考えている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	新鮮な地元の高原野菜をふんだんに使った食事を提供し十分な水分補給をしている。また、体操や歩行等の運動の機会も多く設け、便秘の予防に取り組んでいる。その結果、便秘の利用者は殆どいない。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回午前中に行っているが、利用者の体調や希望により時間や回数は柔軟に対応している。入浴は利用者の昔話などを聞きリラックスしたコミュニケーションの場となっている。また、ゆっくりと入浴したい利用者は順番を最後にするなどの工夫をしている。	入浴は週2～3回午前中に行っている。入浴を一人で入りたい方がおられ、職員はそっと見守りだけの支援もしている。また、嫌がる方には無理強いせずにシャワーチェアを利用して足浴や清拭等で清潔保持をしている。季節感のある入浴剤や 菖蒲湯、柚子湯、身体の循環が良くなるようにと塩を入れたり入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防止するために、日中はコーヒータム等の休息を適宜入れながらレクリエーションや体操等に積極的に参加してもらい、夜間の安眠に繋げている。しかし、日中でも個々の体調に合わせて適宜臥床休息をとってもらうこともある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬が確実に服薬されるよう配膳時に準備し、確実に服用したことを見届けた上で介護日誌に服薬記録を記入している。薬の変更時には職員は利用者の経過観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお茶を配ったり、食事の下ごしらえ・後片付けや掃除等、できることをしてもらっている。日常生活の中でレクリエーション、ゲーム、体操、音楽鑑賞等、気分転換になる楽しみ事を取り入れ、生活の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員の体調を考慮し、介護タクシーも使って花見や紅葉狩りなどに全員で出かけるようにしている。また、時にはファミリーレストランでの食事をすることもある。地域の祭りや花火の時には、玄関やベランダへ出て季節行事を楽しんでもらっている。さらに、天気の良い日は自由にベランダに出て外気浴を楽しんでもらうこともある。	日常的に、居間から広いベランダへ移動して、宇陀川沿いの景色や道行く人、車を見ながら年中外気浴を楽しむことができる。花見や紅葉狩りの外出は利用者の希望を聞きながら、管理者の思いで片道30分を目途とした全員参加の外出を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に、お金は所持してもらわないことにしているが、どうしても所持したい利用者には数千円程度所持してもらっていたこともあ+D105:G108。買い物や欲しい物があるときは、施設で立て替え払いで購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、利用者の希望に応じて施設からダイヤルをして家族等に繋いでいる。手紙については、書ける利用者は少ないが、家族等から届いた場合は利用者に文面を朗読し、電話でその返事ができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には利用者全員が座ることができる特注の大きなオレンジ色のテーブルが置かれ、皆が集まりゆっくり過ごせるようにしている。玄関や居間には季節の花がふんだんに飾られ、明るく家庭的な雰囲気が醸し出され、また壁には利用者の写真や作品が飾られている。居間にはエアコンのほかウィルス殺菌機能のある空気清浄機を設置して空調管理している。浴室やトイレは広くゆったりしており清潔を保っている。日当たりの良い南向きのベランダへは気軽に出入りでき、外気浴をすることができる。	季節の花々が植えられた花壇に続く玄関を入ると厨房につづく居間の中心に、オレンジ色の大きなテーブルが据えられ、利用者全員の顔が見られるようテーブルを囲んで座り、お互いに親近感がもてる雰囲気となっている。管理者の細かな配慮で、感染症予防のため殺菌効果のあるミスト発生装置を4ヶ所に置き、午前と午後窓を開け換気を行っている。広い浴室やトイレの手すりは安全を考え使いやすく配置している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの大きなテーブルを囲んで、気の合った利用者が隣り合わせになって座ってもらっている。ベランダの入口にある白い丸テーブルのコーナーでも、気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大きなクローゼットがあり、衣服や荷物を片付けることができる。使い慣れた家具や調度品等を持ち込んだり懐かしい写真を壁に飾ったりして、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはクローゼット、エアコン、カーテン、ベッドが設置しており、テレビは希望により設置している。又、居室の入り口には利用者のお気に入りの「のれん」がかけられ、使い慣れた調度品などを持ち込み、それぞれの部屋づくりがなされている。午前と午後換気を行い、床下換気も機能している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを多く設置し、四点杖の利用も含め、自立して歩行できるよう安全な環境を整えている。また、車椅子の方も移乗時には手すり等を持って立位を保持してもらうなど、できるだけ残存能力を引き出せるようにして安全で自立した生活に繋がるよう工夫している。		